

3学年1組 国語科学習指導案

児童 男子15名 女子15名 計30名
指導者 小野寺 千津子

- 1 単元名 おもしろいと思うところを、しょうかいしよう
学習材 「三年とうげ」李 錦玉（光村図書3年）

《付きたい力》

- ◎ 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づくこと。（読オ）
○ 場面の移り変わりを捉え、登場人物の気持ちの変化や情景を想像すること。（読ウ）

民話や昔話を読んで、紹介カードを作り、交流する。

2 単元について

(1) 児童について

児童は、「C読むこと」の指導事項ウとオの力をつけることをねらった単元としては、3年上巻「きつつきの商売」「もうすぐ雨に」3年下巻「ちいちゃんのかげおくり」で、登場人物の気持ちや性格、情景を二つの場面の様子や違いに着目して、場面の移り変わりに注意しながら読む学習を経験している。前単元の「ちいちゃんのかげおくり」でも、ちいちゃんが「かげおくり」をする二つの場面を比べ、その移り変わりに注意して物語を読んできた。

これまでの学習で、児童は、叙述に着目し、書かれている語句から場面の比較をすることができるようになってきた。しかし、叙述から登場人物の気持ちの変化や情景を想像することは苦手としている傾向がある。また、自分の考えを言葉にして伝えることにも個人差があり、思いをもてなかったり伝えるのが苦手だったりする児童にも自分の考えをもつことができるようにと、ペア学習やグループ学習を取り入れてきた。

本単元でも、二つの場面で「ころぶ」という行為が出てくるが、それぞれの場面を比べることで、情景の違いや登場人物の気持ちの変化を読み取らせるとともに、多くの友だちの考えに触れることを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしたい。

(2) 学習材について

学習材である「三年とうげ」は、同じような表現や場面が繰り返され、その積み重ねが読者を引きつけるという、民話独特の構造をもっている朝鮮半島に伝わるお話である。そこで転ぶと三年しか生きられないという三年とうげで転んでしまい、気を落としているおじいさんを、水車屋のトルトリがユーモアと機知で立ち直らせるという内容である。ため息が出るほどよい眺めの峠である三年とうげ。魅力的な峠でありながら、人々が恐れる言い伝えがあり、読み手を引きつける。この民話のおもしろさはトルトリの歌に見られる発想の転換にあるが、このような優しさや物事をよい方にと捉えようという生きる知恵がこのお話の主題であると言える。話のおもしろさについて話し合うとともに、構成にも目を向けることで、他の民話や昔話に読み広げて行くときに、結末に至るまでに共通したパターンがあることのおもしろさにも気づくことができ、自分が選んだ民話のおもしろさを伝える学習につなげるのに適した教材である。

(3) 指導について（研究内容との関わり）

① 追求することで課題を解決し、児童の学びが広がったり深まったりするような課題の設定

児童が主体的に学習に関わっていくことができるようにするために、第一次では、「紹介カードを作り、交流を行う」ことの目的や交流の内容確認をし、学習の流れを話し合ったり明確な学習の見通しをもったりするようにする。

② 自分の考えと比較し、自分の考えが広がったり深まったりする対話の工夫

「おもしろい」と思うところを紹介する言語活動の際には、一方的な紹介ではなく、質問や感想を交わす場面を取り入れることでより深い読みや考えの違いに気づけるようにする。

③ 学びの過程はどうだったのかを自覚できるような手立ての工夫

学習の振り返りをするときに、単元全体の学習課題を明記した振り返りシートを活用するこ

とで、常に前後の学習活動を見通して学習に取り組めるようにするとともに、単元全体を通して自分がどのような学びをしてきたのかを振り返ることができるようにする。

3 単元の指導目標

- 民話や昔話のおもしろさを見つけながら、進んで読書しようとする。【関心・意欲・態度】
- ◎ 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づくことができる。【読むこと】
- 場面の移り変わりを捉え、登場人物の気持ちの変化や情景を想像することができる。【読むこと】
- 文章の中で使われている言葉の工夫に着目し、表現するための語句を増やすことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民話や昔話のおもしろさを見つけながら、進んで読書しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民話や昔話を読んで感想を交流し合い、感じ方の違いに気づいている。 (読オ) ・ 場面の移り変わりや登場人物の気持ちを想像しながら読み、民話や昔話のおもしろさを味わっている。 (読ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章中で使われている言葉の工夫に着目し、表現するための語句を増やしている。 (伝国イ(オ))

5 単元の指導計画・評価規準 (全7時間)

次	学 習 活 動	○主な指導上の留意点 ◆評価規準 <評価方法>
一	① 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに読んだり聞いたりした民話や昔話を振り返り、簡単に紹介し合う。 ・ 「おもしろいと思うところを紹介しあう」という学習課題を捉え、学習の見通しをもつ。 ・ 「三年とうげ」の範読を聞き、あらすじを捉える。 	○ これまでに読んだ民話や昔話を想起させ、おもしろかったところや心に残ったところについて自由に発表させる。 ○ リード文を読み合い学習の目的を明確にするとともに、「この本、読もう」を参考に他の民話を平行して読むことを呼びかける。 ◆ いろいろな国の民話や昔話があることを知り、進んで学習に取り組もうとしている。 【関・意・態】<発言・振り返りシート> ◆ あらすじを捉えるとともに、民話や昔話を読み始める。 【読オ】<発言・観察>
二	② 物語を音読し設定(時、ところ、人物)と物語の展開を確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「三年とうげ」はどんなところか、言い伝えと合わせて確認する。 ・ 「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」の4つの場面に分けあらすじを確認する。 ③ 物語を音読して調子のよい表現を楽しむとともに、それぞれの場面での出来事と	○ 「三年とうげの言い伝え」に着目するとともに挿絵も手がかりにして、「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」の4つの場面に分け、外国の民話であることを押さえる。 ◆ 「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」の4つの場面の移り変わりを捉えている。 【読ウ】<発言・学習シート> ○ P62「言葉」を参照し、調子の良い表現を捉えさせる。挿絵を手がかりにして、

	<p>人物の様子のだいたいを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P62「言葉」を参照し、調子のよい表現について知る。 ・ 挿絵を手がかりにしながら、どんな出来事が起こり、どのように解決したか捉える。 	<p>出来事の起こりとその解決について考えさせる。</p> <p>◆ 場面の移り変わりを捉え、登場人物の様子や気持ちの変化を読み取っている。</p> <p>【読ウ】＜発言・学習シート＞</p>
	<p>④ おじいさんの様子を表す叙述から、気持ちの変化を捉え、物語の山場を考える。</p> <p>＜本時＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おじいさんの心理描写・行動描写などから、気持ちの変化を捉える。 	<p>○ 表現の工夫に着目し、おじいさんの様子や気持ちの変化を読み取り、その変化をもたらしたものに気づかせる。</p> <p>◆ 場面の移り変わりを捉え、登場人物の様子や気持ちの変化を読み取っている。</p> <p>【読ウ】＜発言・学習シート＞</p>
	<p>⑤ 「三年とうげ」のお話の組み立てを振り返り、おもしろいところとそのわけについてノートに書き、話し合う。</p>	<p>○ 「三年とうげ」の主題ともつないで、トルトリの人柄や考え方に着目させる。</p> <p>○ 書いたものは、理由とともに発表させる。</p> <p>◆ トルトリの人柄について想像し、理由とともに説明している。</p> <p>【読ウ】＜発言・学習シート＞</p> <p>◆ 作品を読んだ感想を工夫された表現に着目し、本文の叙述を用いながらまとめている。</p> <p>【伝国イ(オ)】＜発言・学習シート＞</p>
三	<p>⑥ 紹介したい民話や昔話を選び、キャッチコピーや絵などを工夫して、ポップを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポップについて知り、本の帯・紹介ポスター・紹介カードの中から自分の作成したいものを決める。 <p>⑦ 民話や昔話を紹介し合い、読み合う。単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポップを参考に民話や昔話を読み合う。 	<p>○ 題名・内容・おもしろいと思うところと理由について学習シートにまとめさせる。まとめたものをどうポップに表現させるか考えさせる。</p> <p>◆ いろいろな民話や昔話を進んで読もうとしている。</p> <p>【関・意・態】＜観察＞</p> <p>◆ 民話や昔話のおもしろさを味わいながら読み、それが伝わるように、ポップを作成している。</p> <p>【読ウ・オ】＜ポップ＞</p> <p>○ ポップを通して、それぞれの感じ方の違いに着目して交流させるようにする。</p> <p>◆ 民話や昔話を読んで、感じ方の違いに気づいている。</p> <p>【読オ】＜発言・ふり返りシート＞</p>

6 本時の指導

(1) 目標

場面の移り変わりを捉え、登場人物の様子や気持ちの変化を読み取ることで、主人公が大きく変わる「山場」を考えることができる。【読ウ】

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ◆評価 <評価方法>
1 学習計画を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を元に、単元における本時の位置づけを確認する。 ・ 病気になってしまったおじいさんがどうなってしまったのか出来事を確かめながら学習場面を音読する。

2 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> おじいさんの変化を確認し「山場」という用語を押さえる。
<p>おじいさんが大きく変わったところ（山場）はどこか。</p> 3 学習の見通しを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習のゴール、学習内容、学習プロセスを確認し、どの子も主体的に学習に関わることができるようにする。 自分が山場と考えたところにサイドラインを引かせ、自分の考えを記述させてから、グループでの話し合いをもつようにすることで、主体的に意見を述べられるようにする。 友だちの意見を聞いて意見を変えても良いことにもふれるようにする。 グループ毎に話し合ったことを発表させ、整理して黒板にまとめることで、全体の考えたことが一目でわかるようにする。 各グループの考えを共有し、おじいさんが大きく変わったところはどこかを考えさせることで、その変化のきっかけとなったものが、トルトリの言葉であることを押さえたい。 時間に応じて、賢く機知に富むトルトリの人物像について話し合ったり、山場を意識させて場面の音読をしたりと広げたい。
4 学習課題を解決する。 (1) 自分の考えをもってからグループでの話し合いを行う。 (2) 全体で交流する。 (3) 自分が考えた山場とその根拠についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 場面の移り変わりを捉え、登場人物の様子や気持ちの変化を読み取ることで、主人公が大きく変わる「山場」を考えることができる。 【読（1）ウ】＜発言・ワークシート＞
5 本時の学習をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容・学び取ったことなどをふり返り、自分の学びを自覚することができるようにする。
6 次時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、トルトリの人柄や考え方について考え、「三年とうげ」の感想をまとめることを確認する。

(3) 評価

評価規準 ＜評価方法＞	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 場面の移り変わりを捉え、登場人物の様子や気持ちの変化を読み取ることで、主人公が大きく変わる「山場」を考える。 【読ウ】＜発言・ワークシート＞
記述例	<ul style="list-style-type: none"> 「うん、なるほど、なるほど」のところで、トルトリの考えにしばらく考えていたけれど、納得したから頷いたと思います。 「布団から跳ね起きると、三年とうげに行き、わざと転びました。」のところで、跳ね起きるぐらい元気になったというのは、ずっと寝込んでいたのとすごく変わったと思います。 「おじいさんは、すっかり嬉しくなりました。」のところで、今までの言い伝えと反対のことをしたら、長生きできるとわかったからだと思います。 「もう、わしの病気は治った。」のところで、けるけるけるとした顔でにこにこ笑ったのは、すっかり考え方が変わったからだだと思います。 (山場がどこかを捉え、その根拠を書いている。)